

様式2の付表

○事業を実施した結果、教育的効果（生徒の取組み等）の状況

1 事業を実施した結果

実施前は古いリングトレリスでブドウの樹体を支えているだけであった（図1）。最盛期では左右に新梢が伸び、そこにブドウが結実する。新梢を支えトレリス自体の負担を軽減するために、ミニティーアンカーの打ち込み（図2）、支柱の設置（図3）、引線の設置（図4）、控え線の設置（図5）等を実施した。実施後の状況は図6に示した通りである。今回の事業により、最盛期では強度面で不安のあった棚を引き線の追加等で補強することができた。これにより、管理や収穫時に不安を抱えることなく実習が行えるようになった。



図1 実施前の状態



図2 アンカーの打込



図3 支柱の設置



図4 引線の締付け



図5 控え線の確認



図6 実施後の状況

2 教育的効果

今回の事業で果樹棚を構成する基本的な要素を学習することができ、新規に棚を設置する際の手順や道具の使用方法等を知ることができた。果樹農家や就農を希望する生徒達は、専門業者に頼らずとも、自分自身の手である程度の施設設置ができることを学べた。特に、果樹で就農を考えている生徒は「棚の設置や補強が自分たちでできるとは思っていなかった。やってみると大変な作業だが、将来的に役に立つ勉強になった。」との感想が印象的だった。